

臍ヘルニアの手術を受けられる患者様へ

臍ヘルニアは、いわゆる「でべそ」と呼ばれるものです。

臍帯（さいたい）が通っていた部分（臍輪）が、臍が脱落（臍脱）したのちに縮んでいきます。このときに臍輪が収縮、臍の皮膚も一緒に引き込まれていくことでへこんだおへそになります。臍ヘルニアは、この収縮がゆっくりでありおなかの中からの力がかかってしまったことで膨らむようになるものです。

通常、泣いた場合などおなかに力がかかると大きく膨らみます。大きく膨らむお子さんのなかには腸が入り込んで抜けなくなってしまう（かんとん）ことが「非常にまれですが」あります。いつもと違い非常に痛そう、臍の部分が赤くなってくるという事があれば緊急処置が必要となりますので至急連絡をするようにしてください。

臍ヘルニアは非常に多く、新生児10人に1人とされ、小さく、早くお生まれになったお子さんでは、より発生率が高くなります。放置しても1歳までに8割、2歳までに9割程度、自然に治るとされますが、乳児期であれば圧迫療法をお勧めしています。これは治癒率を高める可能性があること、皮膚のたるみが減るので最終的に手術が必要になったとしても、よりきれいな形になりやすいためです。現在、臍ヘルニアの手術適応は「1歳以降」としています。ただ、1歳を過ぎたから手術が絶対に必要というわけではありません。手術の適応が、ほぼ全員「整容性（見た目）」目的になります。時に臍の皮膚を引っ張ってしまうようになるお子さんがおりますが、この場合は早期手術をお勧めしています。

臍ヘルニアの手術は全身麻酔で行います。臍の下半分を切って、①臍輪を閉じる。②飛び出していて分厚くなってしまった臍の皮膚を裏から削り、薄くする。③臍の皮膚を糸で固定して見た目を整える。ことになります。手術は1時間程度で終わることが多いですが、分厚い皮膚や形を整えるのが難しい場合にはより長くなることがあります。

手術の合併症は①出血（手術では出血を止めてから帰ってきますが、泣いたりおなかに力を入れたときに再出血を起こすことがあります。）②感染（傷口が赤くなり膿が出るようになります。傷口の処置が必要になります）③不満足（術後の臍の形が保護者の期待通りにならない場合があります。程度によっては再手術を行います。）④再発（また膨らむということです。再手術の適応になります。）などがあげられます。

術後は1週間テープを貼りっぱなしにします。剥がれそうであれば防水の絆創膏で補強してください。出血や周りの皮膚の発赤など傷口で気になることがあれば連絡をお願いします。体を動かす習い事、運動の制限は2週間ですが、勝手に走ってしまうなどは構いません。幼稚園・保育園・小学校は翌週月曜日から登校可能ですが、体育の授業や体操は2週間お休みさせていただきます。